

Sincerity①6

校長 菊田勇雄

行秋の雨けぢめなく降つてをり (井上木雞子)

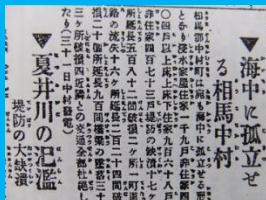
10月25日の夕方から浜通りを襲った豪雨は、再び相馬に大きな被害をもたらしました。宇多川と小泉川の水位が上昇し、市内の広い地域に緊急避難指示が発令されました。道路は至る所で冠水して通行止めとなり、各所で床下・床上浸水が起きました。本校では雨漏りに加え、講武堂が浸水してしまいました。翌日、雨漏りの後処理を手伝ってから駅前に出てみると、多くの商店や住宅で土砂の掻き出しや濡れた家具等の洗浄作業が行われていました。放置された自動車の無惨な姿は、被害の大きさを物語っていました。身の危険を感じる程の雨に、普段は静かなアパート前の堀は激流と化し、その様に改めて水の恐ろしさを実感させられました。二十四節気の霜降も過ぎて秋も深まり、朝夕はぐっと冷え込むようになりました。生徒諸君にはくれぐれも体調管理に気を配り、学習や部活動に取り組んで欲しいと思います。

大正2年の洪水被害について

10月12日の夕方から13日の朝にかけて、大型で強い勢力の台風19号が東日本を通過し、記録的な大雨が各地に甚大な被害をもたらしました。相馬市では宇多川や小泉川が氾濫し、浸水区域は広範囲に及びました。住宅浸水が2993戸、断水も1週間ほど続き、市民生活が脅かされました。自然の猛威に私たちは為す術もありませんが、被害を最小限に食い止める取組は喫緊の課題です。本校は雨漏りのため一部の教室が水浸しになり、天井パネルの一部が落下するなどの被害がありましたが、15日には断水も解消し、翌日から授業を再開しました。ご支援をいただいた関係者の皆様に紙面を借りて心より御礼申し上げます。

ところで、古くから相馬中村地方は宇多川の洪水に苦しめられてきましたが、大正2（1913）年8月26日に福島県を襲った豪雨は、各地に甚大な被害をもたらし、宇多川も大規模な氾濫を起こしました。当時の福島民報は「海中に孤立せる相馬中村」の見出しで被害を伝えました。前身の旧制相馬中学にも被害が及び、学校が作成した報告書によれば、概略は次のようでした。学校前を走る県道は急流と化し、交通途絶は惨憺たる光景。宇多川と中村城のお堀からの雨水が猛烈な勢いで校庭に流入し、一面川のようにになりました。雨漏りにより建物が著しく破損し、『被害甚しくこれあり候』という状況でした。

巨大な台風が発生する原因は海水温の上昇にあり、それをもたらすのが地球温暖化に他なりません。はからずも9月に米国のニューヨーク国連本部で「気候行動サミット」が開かれ、77カ国が2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにすることを約束しました。スウェーデンの環境活動家グレタ・トゥンベリさんの「未来の世代はあなたを見ている。私たちが裏切る道を選べば許さない」という言葉は、各国首脳だけではなく、私たち大人に向けられたように思えてなりません。一人ひとりが化石燃料に依存する生活から脱却し、地球温暖化をくい止めるため努力する時が来ています。



校内文化祭開催 ～時は短し彩れ若駒～

10月24日、台風19号のため延期になっていた校内文化祭が開催されました。書道部のパフォーマンスで賑やかに始まった文化祭は、午前には演劇、太鼓、軽音楽、吹奏楽の各文化部和保健委員会、出版局の発表があり、午後には生徒会企画として、クラス発表、有志発表、未成年の主張が行われました。各会場においては文化部による展示があり、どれも日頃の活動の成果がよく現れた内容でした。クラス発表は動画による参加とステージ発表による参加に分かれましたが、クラスの雰囲気をよく捉えた作品からは創意工夫が、皆で協力したパフォーマンスからは若さ溢れる熱気が伝わってきました。有志による歌やダンスの質の高さには目を見張るものがありました。未成年の主張ではユーモアある主張に大いに盛り上がりました。終日、学校全体で楽しい時間を共有し、生徒諸君の高い感性と表現力に彩られた校内文化祭は大成功でした。



茶華道部から生けた花をいただきました

校内文化祭終了後、茶華道部の生徒さんが生けた花を校長室に持ってきてくれました。早速、ソファセットのテーブルに飾らせていただきました。深紅のバラの花とピンク色の百合の花に、かすみ草がバランスよく配置されていました。花があると心が和むと同時に部屋に潤いが生まれます。美しい花をありがとうございました。



講武堂の復旧作業について

25日の豪雨で浸水被害に遭った講武堂の復旧作業が行われました。26日はバスケットボール部の諸君が、28日は1・2年生諸君が、周辺の土砂の洗浄、内部の床の雑巾がけ、濡れた畳の運搬等、献身的に作業をしてくださいました。また、先生方にもお手伝いいただきました。紙面を借りて改めて御礼申し上げます。



芸術鑑賞教室 中国スーパー雑伎団が来校

10月23日、体育館において芸術鑑賞教室が行われ、中国スーパー雑伎団のステージを鑑賞しました。中国雑伎には二千年の歴史があり、中国国内で数々のコンクールで入賞している団員のアクロバティックな妙技に一堂ハラハラドキドキでした。また、役者の表情が瞬時に変わる四川劇の変面には驚きました。演技の合間には中国語について楽しいトークもありました。圧巻は何と言っても最後の「椅子倒立」の演技です。ステージ前の縁台で椅子を6つ積み重ね、てっぺんで倒立をする信じられない技に拍手が鳴り止みませんでした。生徒諸君も大いに楽しんでいました。震災以来、中断していましたが、再開に相応しい記念すべき芸術鑑賞教室になりました。



柔道部の黒髭君、県高校新人大会で3位

10月24日から25日に行われた第59回福島県高校新人体育大会柔道競技男子個人66kg級において、黒髭健人君が見事3位に輝きました。準々決勝で田村の佐藤に優勢勝ちし、準決勝で優勝した学法石川の大森に延長の末惜しくも敗れましたが、見事な戦いぶりで見事な成績を残しました。



同窓生列伝⑥ 折笠晴秀 (1885-1965) 続編 ～秩父宮雍仁親王の執刀医として～

秩父宮雍仁（やすひと）親王は大正天皇の第二皇子にして昭和天皇の弟宮です。昭和15年に肺結核を発症、翌年から御殿場で療養生活に入りました。同19年には一時容態が急変しましたが回復し、昭和20年に陸軍少将として終戦を迎えました。戦後も療養しながら皇族としての公務を務めていましたが、昭和23年に体調が悪化。同年9月、折笠晴秀は主治医の遠藤繁清・寺尾殿治両博士の推薦により初拝診後、すぐに腎臓別出手術を執刀しました。その時のことを折笠は次のように振り返っています。「御殿場の御邸に伺候し、初めて両殿下に拝謁した。自分は不作法な野人でありまして、と申し上げると、殿下にはニコニコ御笑いになって、決して遠慮せず普通の患者と思って診て呉れと仰せられた。」折笠による手術は成功し、その後は侍医団に加わり、月に2回の頻度で秩父宮邸を訪れ拝診しています。昭和27年暮、再び秩父宮の体調不良が始まると、侍医団は手術を決定し、折笠が再び執刀することになりましたが、直前に中止されました。その時のことを折笠は次のように回想しています。「容態が思わしくないで私は非常に躊躇した。（中略）メスを下すばかりに凡ての準備が出来て居る。どうも気が進まない。私は意を決した」。折笠は秩父宮の容態は重篤で手術をすれば痛みが増すばかりであると判断し、侍医団に手術の中止を相談したのでした。その後、秩父宮は快復することなく逝去することになりましたが、折笠は苦悩の末に手術を取りやめたことを『殿下に対する最後の御奉公』と語っています。遺言により秩父宮の遺体は解剖に附されました。秩父宮はスポーツをこよなく愛し、「スポーツの宮様」と呼ばれて親しまれました。花園ラグビー場の誕生に関わり、秩父宮ラグビー場には宮号が遺されています。御殿場の旧秩父宮御別邸の富士山を望む宮様の銅像



全国高等学校理数科教育研究協議会が 開催 伏見教諭がステージ発表!

10月3日から4日まで神奈川県川崎市スポーツ・文化センターにおいて、第47回全国理数科教育研究大会が行われました。研究テーマは「知の創出をもたらす創造性豊かな人材を育成する理数科教育－主体的・対話的で深い学びによる科学的な探究力の育成を目指して－」。1日目は、東京理科大学栄誉教授の藤嶋昭先生の「偉大な科学者に学びつつ、これからの理数教育への期待」と題する記念講演がありました。光触媒研究の世界的権威でノーベル賞候補でもある先生の熱のこもったお話に引きつけられました。つづく研究発表では、数学分野の代表として伏見裕樹教諭がステージ発表を行いました。内容は東北・北海道大会に続き、「ピア・チューター方式による数学の学習指導」を中心とした理数科の取組でした。指導助言では、生徒の学習意欲の喚起と達成感の醸成に効果ができること、中学生が本校への関心を高め入学につながることを期待できること等、高い評価をいただきました。今後は長期的な活用方法を検討していきたいと考えています。大会では他県の理数科高校の先進的な取組を学ぶとともに、川崎総合科学高校、日大豊山女子高校、豊島岡女子高校の生徒が取り組んだ課題研究のポスターセッションもあり、質の高い素晴らしい大会となりました。



太鼓部が地域安全運動出動式に出演

10月9日、相馬市総合福祉センターで地域安全運動出動式が行われ、本校太鼓部がアトラクションで演奏を披露しました。地域安全運動は、10月11日から実施された全国地域安全運動の一環として行われ、相馬地区内における事件事故防止活動の活性化を目的としています。太鼓部の力強い演奏は、関係機関の方々や参加した防犯ボランティアの方々の志気高揚に貢献してくれました。



総合福祉センター「はまなす館」で迫力ある演奏を披露する太鼓部